

A prospective Cohort Study of Lower-Extremity Pressure Ulcer Risk Among Bedfast Older Adults

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Okuwa, Mayumi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/19479

平成 18年 8月 28日

博士論文審査結果報告書

学位授与番号 医博甲第 1811 号

学籍番号

氏 名 大衆 麻由美

論文審査員

主 査 (職名) 稲垣 美智子 (教授)



副 査 (職名) 城戸 照彦 (教授)



副 査 (職名) 須釜 淳子 (教授)



論文題目 A Prospective Cohort Study of Lower-Extremity Pressure Ulcer Risk Among Bedfast Older Adults.

寝たきり高齢者における下肢褥瘡の発生要因に関するコホート研究

論文要旨

一旦発生すると重症化する寝たきり高齢者の下肢褥瘡は課題となっているが、その発生率や発生要因は不明である。本論文は発生とそれに関する要因を前向きに調査し、予測と介入のための新たな指標を確立するために、寝たきり高齢者を対象に1年間前向きコホートスタディを行い、寝たきり高齢者の下肢褥瘡の発生率と発生要因を明らかにした。

対象は、65歳以上の寝たきり高齢者で、調査開始時に下肢褥瘡を保有しない者。方法は発生率を対象の毎日の皮膚観察は施設のスタッフが行い、褥瘡の判定は創傷ケアのスペシャリストである研究者が行うという方法を取り、文献検討により抽出した発生要因を要因と対象の下肢褥瘡発生を調査した。分析方法は発生率は部位・深達度を記述統計し、計算式は人日法を用いて算出した。また発生要因の分析は下肢褥瘡発生に寄与する要因をCox比例ハザードモデルで抽出しROC曲線を描き、その分離値を算出した。

その結果、発生率は16.8人年であり発生部位は足指に最も多くStageⅢ・Ⅳの深い褥瘡であることが明らかになった。また発生要因は低ABI男性・長期寝たきりであること、さらに最も下肢褥瘡発生に寄与するABIの分離値は0.8であることを明らかにした。

これらの結果から寝たきり高齢者のABIは寝たきり高齢者の下肢褥瘡発生のスクリーニングとして推奨できると示唆された。

論文審査要旨

この論文は、本邦の寝たきり高齢者において課題の一つである下肢褥瘡の発生とその発生要因を、前向きコホート研究により追究した点で独創的な研究である。下肢褥瘡の発生要因を抽出し、発生アセスメント項目として、ABI0.8という具体的な分離値を提示したことは、今後の臨床において実行可能な指標であり、価値ある示唆であると考えられる。公開審査においての質疑において、その内容、態度は的確且つ論理的であった。

以上より、本論文が博士(保健学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は保健学における研究を自立して行うことに必要な高度な研究能力を有すると認め、論文審査を合格と判定した。